

# GUIDEBOOK



MUSEUM MEISTER  
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

[www.museum.hokudai.ac.jp](http://www.museum.hokudai.ac.jp)

The Hokkaido University Museum

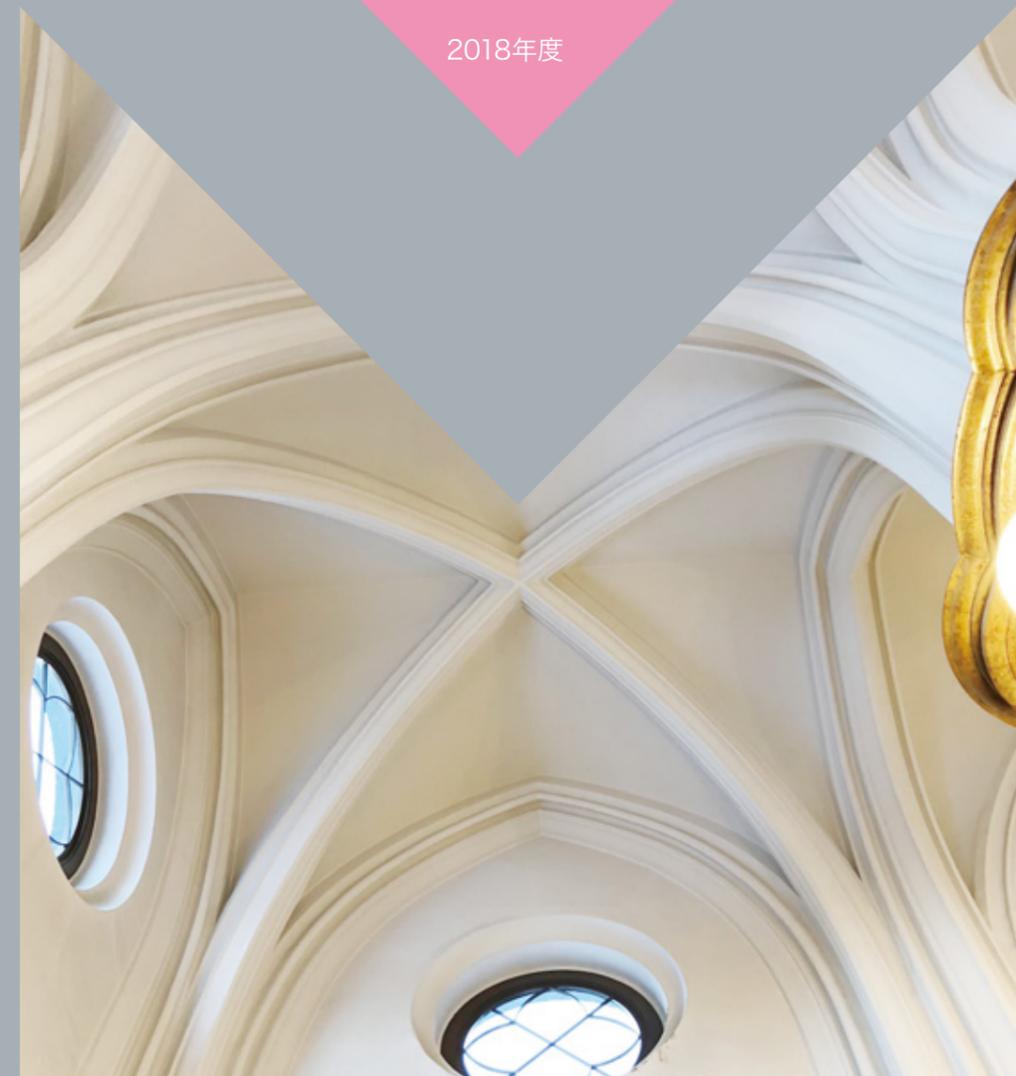
MUSEUM  
MEISTER

北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内

2018年度



- 01 社会はミュージアムマイスターを待っている!
- 02 ミュージアムマイスター認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集  
「マイスターに聞いてみよう!」
- 08 登録申し込みについて

# 社会は ミュージアム マイスターを 待っている!

皆さんは、大学では専門分野について深く学ぶことが大切だと思っているでしょう。そのこと自体は間違っていないが、北海道大学のような総合大学では、学科や学部の垣根を超えて、広い分野を学ぶことができます。そのような恵まれた環境にいることを、最大限に活用しましょう。総合博物館では「博物館を舞台とした体験型教育」課程を設定し、広い分野の知識を講義や実習で習得するだけでなく、博物館が主宰する課外演習や活動を通じて実践的に学ぶコースを作りました。このコースでは一定水準をクリアした学生は「ミュージアムマイスター」として認定されます。しかし、平成21年度から始まったこのプログラムでは、マイスターはまだ30名しか誕生していません。いかに選りすぐられた人材に与えられる称号であるか、わかんと思います。このコースで我々が重視するのは、知識だけではなく、現代社会において必要とされる「社会貢献のための高い見識と情熱」、「人間社会の持続的発展のために貢献できる知恵」を持つ人材の育成なのです。これは、北大の教育理念である「全人教育」の完成形であるといえるでしょう。皆さんもマイスターを目指して、充実した学生生活を過ごしてみませんか。

2018年4月

北海道大学総合博物館長  
中川 光弘



# ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。

## ● 受講方法

下記の通り科目種別(A~D)の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

### A 全学教育科目 (総合科目、一般教育演習、主題別科目)

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

### B 学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。(履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。)

### C 大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。(マイスターコースのクレジットは取得できますが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。)

### D オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムのため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで前期・後期に各1回行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

#### ◎クレジットについて

クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」に必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

## ● 認定までの流れ



# 開講科目一覧

●下記の科目情報は平成30年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時間についてはシラバスや各掲示板も必ず確認してください。

科目種別	授業名	開講時期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 生物の多様性	1	水曜(5)	柁原 宏	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] フィールド科学への招待	1	金曜(5)	四ツ倉 典滋	2
A 全学教育科目(総合科目)	[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	2	木曜(5)	山崎 幸治	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	1	木曜(5)	江田 真毅	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然 — 植物学入門	1	木曜(5)	高橋 英樹	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然と歴史	1	金曜(5)	高橋 英樹	2
B 文学部専門科目	博物館概論	1	水曜(1)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館教育論	1	木曜(1)	湯浅 万紀子	2
B 文学部専門科目	博物館資料論	1	金曜(5)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館経営論	2	火曜(5)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1	水曜(5)	山下 俊介	2
B 文学部専門科目	博物館展示論	2	金曜(5)	山崎 幸治	2
B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1	火曜(5)	鈴木 幸人	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] ヒグマ学入門	2	水曜(5)	増田 隆一	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム 一人間と環境科学—[1]	1	集中	山田 敏彦	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム 一人間と環境科学—[2]	2	集中	山田 敏彦	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	International Archaeological Field School in Rebus Island	1	集中	加藤 博文	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	1	月曜(5)	岩崎 直人	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 札幌と音楽文化	2	木曜(5)	三浦 洋	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 美術館という現場	1	水曜(2)	北村 清彦	2
B 文学部専門科目	北方人類学演習: フィールドワーク実践 [18]	1	火曜(3)	佐々木 亨	2
B 水産学部専門科目	水圏生物学	春	火曜(3~4)	河合 俊郎	2
B 水産学部専門科目	魚類学	春	月曜(1) 水曜(2)	今村 央	2
B 水産学部専門科目	魚病学	夏	火曜(1) 金曜(3)	笠井 久会	2
B 水産学部専門科目	水族館学	春	木曜(3~4)	河合 俊郎	2
C 文学研究科専門科目	北方文化論特殊講義: ミュージアムのマネージメント [18]	2	火曜(3)	佐々木 亨	2
C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義 I: 学術標本・資料学	秋・冬	金曜(5)	高橋 英樹	2
C 理学院専門科目	自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 II [1]	1	集中	西野 嘉章	1
C 理学院専門科目	自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 II [2]	1	集中	西野 嘉章	1
D 総合博物館・オフカリキュラム	バラタクソノミスト養成講座	—	随時*	—	0.5~1
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)	1	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価	春・夏	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(ミュージアムグッズの開発と評価)	2	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価	秋・冬	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	理科教育課程マネジメント特論	2	金曜(4)	山田 邦雅	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	学生参加プロジェクト(展示制作、展示解説など)	—	随時*	湯浅 万紀子	1~2
D 総合博物館・オフカリキュラム	卒論ポスター発表会	—	1月中旬~ 3月上旬	湯浅 万紀子	2

※ 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

## 導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



### 全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在

### 全学教育科目(一般教育演習)

- ・北大エコキャンパスの自然—植物学入門
- ・北大エコキャンパスの自然と歴史

### 文学部専門科目

- ・博物館概論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館展示論
- ・博物館資料保存論

## ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。博物館の活動と運営について理解を深める科目。



### 授業紹介

#### ●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということを学習します。また、水族館で実際に行っている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。

本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講師を担当します。今年度は鴨川シーワールド総支配人の荒井一利氏、大阪海遊館館長の西田清徳氏、沖縄美ら島財団水族館事業部統括の佐藤圭一氏、おたる水族館海獣飼育課係長の三宅教平氏を予定しています。

水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたとないチャンスです。



#### ●博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

「博物館学特別講義Ⅰ」では各専門分野における標本・資料の意味、取り扱い方を理解します。具体的には、標本・資料の採取・収集法、保管法、利活用の技法、データ整理・公開法などについての知識や考え方を習得します。各分野の教員が週替りで講義をするオムニバス形式の授業で、自然史系として1)哺乳類・鳥類、2)魚類、3)昆虫、4)陸上植物、5)海藻、6)古生物、7)岩石・鉱物、8)昆虫データベース、9)分子系統進化。文化史系として10)民族学、11)言語学、12)縄文・アイヌ文化考古学、13)動物考古学、14)映像・科学技術史資料を取り扱います。

学芸員資格のアドバンスコースとして位置付けていますが、同時に自然史・文化史を対象とした各研究分野への理解を深め、文理を融合した広い視野を持った教養人としての資質も身につけます。



## 社会体験型科目

学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換する。



### 理学院専門科目

- ・博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
- ・理科教育課程マネジメント特論

### 大学院共通授業科目

- ・博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価

### 総合博物館・オフカリキュラム

- ・学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)
- ・卒論ポスター発表会

### 授業紹介

#### ●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部4年生が、4年間の研究の成果を大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを制作し、わかりやすく説明することが求められます。中間発表会を複数回行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



### 参加者の声

◎発表会当日は、本当に楽しかったです。専門が近い方から研究に直結するようなアドバイスをいただいたと思えば、逆に小さなお子さんに、分かりやすかった!と笑顔で言ってもらえることもあり、たくさんの言葉をたくさんの方々と交わすことができた、非常に有意義な2日間でした。

◎なんとか他分野の人に少しでも自分の研究のおもしろさを伝えたいという一心で取り組みました。中間発表会では研究テーマに熱中している同年代の他分野の学生と検討を重ね、自分にとっては大変良い刺激になったので、今後これらの経験を活かせるようにしたいです。

◎卒業論文を1枚のポスターにまとめるのは想像以上に難しかったですが、中間発表会を重ねるうちに伝え方や語り方のコツを掴むことができました。また、他分野の学生たちとこうしてステップアップを体感することは大変良い刺激になりました。

◎ポスター発表会を通して、自分の価値観にとらわれず、聞き手がわかりやすいように発表をしていくことの大切さを体験し、自分の研究の面白さを発表を聞いてくださった方と共有できたとき、研究生生活はつらいこともあったけれども、本当に続けていってよかったと思えました。

#### ●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト：企画展展示解説/卒論ポスター発表会の運営 他多数



### 受講者の声

#### 「惑星地球の時空間」展示解説

◎解説の際は対話をするように意識し、来館者の背景を知ることでより近い距離で解説ができ、理解を確かめながら対応することができました。展示解説は、一方向になりがちな展示を対話型の二方向にする手段の一つとして有用であり、人と人の結びつきが博物館活動を支えているのだと感じました。自分から来館者へ新たな価値を提供するだけでなく、来館者から新たに学ぶことも多かったです。

#### 「宇宙の4Dシアター」プログラムの運営

◎4Dシアターの運営には、自主性と責任感が必要だと感じました。企画立上げ、台本作り、広報や会場設営など、自分たちで一から考え、各々の役割を責任をもってやり遂げることで一つの公演ができあがることを学びました。また、博物館ボランティアさんとの協働作業を通じて、好きなことをグループで共有しながら取り組めるのは素敵なことで、そうした場の提供も博物館の魅力の一つだと気づくことができました。

ミュージアムマイスター認定コースでは、これまでに30名のマイスターが誕生しています。昨年2017年度にマイスターに認定された3名の学生に、マイスターコース受講のきっかけ、印象に残っている授業やプロジェクト、マイスター認定後の活動と現段階で考えるコースの意義や魅力について語っていただきました。マイスターコースで培った経験を活かし、博物館内外の様々な場で活躍しているマイスターたちの声を聞いてみましょう。



## マイスター認定者内訳

認定時の所属	人数
文学部	5
教育学部	1
理学部	4
工学部	1
農学部	2
水産学部	3
文学研究科	2
環境科学院	1
理学院	8
農学院	1
生命科学院	1
公共政策科学院	1

## message

私がマイスターコースの存在を知ったきっかけは、博物館で植物標本のボランティアを始めたことでした。専門分野である植物の魅力、面白さを人に伝えられるようになりたいと以前から思っていたため、受講することを決めました。

マイスターコースの授業では、実際に資料・標本に触れたり、外に出て採集をしたりする機会が多く設けられていて、博物館に関わる様々な分野を、身近に感じながら学ぶことができました。学部4年生の時に取り組んだ卒論ポスター発表会では、市民の方に研究成果を発表するために、どう説明したらよいかを数ヶ月かけて考え工夫しました。また、「ランの王国」展と「古生物学の巨人たち」展の解説では、話し手、聞き手の両方の立場に立って市民の方との交流を楽しむことができました。大学院に進学後、市民の方向けに研究発表をする機会が度々あるのですが、この時の経験がとても役に立っています。

マイスターコースを受講して一番良かったと思うことは、たくさん他の学部学生や市民の方と出会い、お話しできたことです。一人一人が、自分の「大好き」なものを持っていて、お話しするのがとても楽しかったことを覚えています。私自身も、出会った方々と交流する中で、「大好き」な植物の話がたくさんさせていただき、そうした中で、少しずつ自分の伝える力も向上していきました。この冊子を読んでいるみなさんも、博物館で自分の「大好き」を誰かと共有してみませんか。



## 和久井 彬実

環境科学院博士課程1年  
環境科学院修士1年次に  
マイスターに認定



## message

博物館学を学ぶために北大大学院に入学し、北大総合博物館を研究の場としたいと考えていた私は、迷わずマイスターコースの受講を決めました。博物館ととことん向き合う本コースを通して、自分が考える博物館像や来館者像は更新されていきました。例えば、「ミュージアムのマネジメント」では、各地の博物館で行われる東日本大震災に関する展示について、震災発生後から現在までの変化を調査しました。調査では、博物館が人々の心の復興を支えたことや、実物資料だけでなく個人の記憶をも記録する機能を担うことが示唆され、博物館が持つ役割の多様さを感じました。さらに、「学生参加プロジェクト」では、展示解説員として来館者との交流を重ね、人々はそれぞれ異なる視点で博物館の魅力を感じていることに気付かされました。これらの経験がきっかけとなり、修士研究では「北大総合博物館の楽しみ方」をテーマに、博物館の魅力を利用者・運営者とともに考える活動に挑みました。

博物館を持つ大学は実はあまり多くありません。私が学部時代を過ごした大学も大学博物館はありませんでした。北大には立派な博物館があり、そこには「北大生」を温かく応援してくれる人々がいます。私は大学院の2年間、北大総合博物館という修行の場で成長することができました。この博物館を最大限に活用できることは「北大生」の特権です。まずは一度、気軽な気持ちで北大総合博物館を訪れてみてください。



## 増田 彩乃

2018年3月理学院修了  
理学院修士1年次に  
マイスターに認定



水産科学院修士課程2年  
水産学部4年次に  
マイスターに認定

## 江口 剛

## message

受講動機は、履歴書の資格欄に「ミュージアムマイスター」と書きたかったからです。私は入学時の配布資料のなかにこの冊子を見つけ、マイスターコースについて知りました。目立った特技も資格もなかった当時の私にとって、北大ならではの「称号」は魅力的で、参加を志望するには十分な理由でした。このような些細なきっかけでしたが、いざ始めてみれば学べる事が多く、今となっては称号以上に得るものがあったと考えます。特に印象に残っているのは卒論ポスター発表会です。卒論ポスター発表会では、さまざまな学部から参加した学生が自身の卒業研究を一枚のポスターにまとめ、総合博物館内の会場で市民を含めた来場者に紹介します。専門用語が多い大学の研究を市民の方々に紹介できるか、当初は不安でした。しかし、身近な自然現象や広く知られた科学知識を引き合いに説明することで、内容が正確に伝わり、面白いと言っていただきました。特殊な実験や最新技術を用いる研究でも、工夫次第で分かりやすく伝えることを経験し、伝える面白さややり甲斐を実感しました。

この発表会が転機となり、将来の選択肢が大きく広がりました。今までは研究職や進学ばかりを考えていましたが、情報を分かりやすく伝える仕事にも強い魅力を感じるようになったからです。現在は就職活動の準備中で、まだどうなるかは分かりませんが、マイスターコースを通してやりたい仕事が明確になったように思います。

もし受講するか迷っていたら、とにかく挑戦してみてください。仮にマイスターに認定されずとも、その経験はきっと将来に役立ちます。新たなミュージアムマイスターをお待ちしております。



# 登録申し込み について

北大総合博物館のウェブサイト  
(<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/>)  
からダウンロードし、以下の記入例を参考にして、  
必要事項を記入してください。

## ※注意事項

黒のボールペン、またはサインペンではっきりと記入してください。  
書き間違い、記入漏れ等がないか、もう一度しっかりと見直してください。

科目名の左側の欄に、該当する  
マークを記入してください。  
該当する科目がない場合には、  
未記入でも構いません。

既に履修した科目=◎  
現在履修している科目=○

メールアドレスには、なるべく  
PCメールのアドレスを記入して  
ください。メールアドレスは、ハイ  
フン、アンダーバー、ドット等  
をはっきりと記入してください。



## ミュージアムマイスター認定コース 登録申込書

ミュージアムマイスター事務局 行 整理番号 \_\_\_\_\_

私は、ミュージアムマイスター認定コースに下記の通り登録を申し込みます。

フリガナ ホク ダイ タ ロウ

氏名 **北大 太郎**

〒 060-0810 フリガナ サツポロシ キタク

連絡先住所 **札幌市北区  
北10条西8丁目 北海道大学**

〒 060-0810 フリガナ サツポロシ キタク

申し込み年月日 平成 30 年 4 月 20 日

生年月日 昭和 (平成)11 年 12 月 1 日

性別  男 ・ 女

学部・学年 文学部 1年

学生番号 00000000

電話番号 011-706-4704

Eメールアドレス taro@museum.hokudai.ac.jp

履修科目について リーフレットを参考に履修科目の左側の欄に、該当するマークを記入してください。  
既に履修した科目=◎ 現在履修している科目=○

導入科目	ステップアップ科目	社会体験型科目
<input type="checkbox"/> 〔環境と人間〕生物の多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 〔環境と人間〕ヒグマ学入門	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)
<input type="checkbox"/> 〔環境と人間〕フィールド科学への招待	<input type="checkbox"/> フィールド体験型プログラム-人間と環境科学-〔1〕	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価
<input type="checkbox"/> 〔環境と人間〕 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	<input type="checkbox"/> フィールド体験型プログラム-人間と環境科学-〔2〕	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 II (ミュージアムグッズの開発と評価)
<input type="checkbox"/> 〔人間と文化〕アイヌ-先住民研究の現在	<input type="checkbox"/> International Archaeological Field School in Rebun Island	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価
<input type="checkbox"/> 北大エコキャンパスの自然-植物学入門	<input type="checkbox"/> 〔芸術と文学〕学芸員から見た美術の世界	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 IV ミュージアムグッズの開発と評価
<input type="checkbox"/> 北大エコキャンパスの自然-歴史	<input type="checkbox"/> 〔芸術と文学〕札幌と音楽文化	<input type="checkbox"/> 理科教育課程マネジメント特論
<input type="checkbox"/> 博物館概論	<input type="checkbox"/> 〔芸術と文学〕美術館という現場	<input type="checkbox"/> 学生参加プロジェクト ( )
<input type="checkbox"/> 博物館教育論	<input type="checkbox"/> 北方人類学演習-フィールドワーク実践〔18〕	<input type="checkbox"/> 卒論ポスター発表会
<input type="checkbox"/> 博物館資料論	<input checked="" type="checkbox"/> 水圏生物学	
<input type="checkbox"/> 博物館経営論	<input type="checkbox"/> 魚類学	
<input type="checkbox"/> 博物館情報-メディア論	<input type="checkbox"/> 魚病学	
<input type="checkbox"/> 博物館展示論	<input type="checkbox"/> 水圏学	
<input checked="" type="checkbox"/> 博物館資料保存論	<input type="checkbox"/> 北方文化論特論 ミュージアムのマネージメント〔18〕	
	<input type="checkbox"/> 博物館学特別講義 I: 学術標本-資料学	
	<input type="checkbox"/> 自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 II〔1〕	
	<input type="checkbox"/> 自然史科学特別講義 IV: 博物館工学 II〔2〕	
	<input type="checkbox"/> パラタクソノミスト養成講座	

システム管理者記入欄 認証年月日 平成 年 月 日 登録番号 \_\_\_\_\_



北海道大学総合博物館  
ミュージアムマイスター事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目  
北海道大学総合博物館2階 研究支援推進員室  
TEL & FAX: 011-706-4704 内線(4704)  
開室日時: 火~金 10:00~16:00

必要事項を記入した登録申込書を持参のうえ、  
ミュージアムマイスター事務局に提出し、登録手続きを行ってください。